



「新しい日常」

小・中学部副校長 田中 俊光

季節は梅雨真っ盛りです。職員室から見える樹木は雨が降るたびにその緑色を濃くしていきます。夏の日差しの中で、フル稼働で光合成をするための準備をしています。学校現場ではこの間、長期の臨時休業があったり、何十年も変わることのなかった夏休みが短くなったりと、あり得ないと思われていたことが次々に現実になっています。身近な植物が例年どおりの営みを行っているのを見ると、とてもほっとします。

小学部の1年生の教室をのぞいて見ると、6月の初めは泣いていた子が、もう泣かなくなっていたり、自分の身のまわりのことでできることが少しずつ増えていたり、変化が見られます。短い間ですが、児童・生徒も着実に学校に慣れて成長している様子がとても頼もしく感じます。臨時休業から分散登校と、保護者の皆様にも御協力をいただきましてありがとうございました。新型コロナウイルスによって、社会のいろいろなことが変わりつつあります。学校では特に、密になることを前提としてきた取り組みが多いので、児童・生徒と一緒に教員も柔軟に発想を変えていく必要があります。

まだ東京都では、かなり多くの方が毎日感染者として確認されています。学校では校内の換気や消毒を徹底してまいりますので、御家庭でも、引き続き登校前の検温や健康観察をお願いいたします。

そんな中ですが、私は、ふと、「おしくらまんじゅう」とかという言葉が、通じない世代が育ってくるのだろうなど、のんきなことを考えたりしています。

「学校生活の意義」

高等部副校長 井上 一仁

学校が再開され1か月が過ぎようとしています。例年と違った形でスタートし、生徒達も戸惑いがある中で、生徒たちは私の名前を覚え、玄関や教室で元気に挨拶をしてくれています。日々の積み重ねの中で、先に挨拶をしてきたり、私の顔を見て会釈をしてきたりなど成長を感じているとともに、毎日元気をもっています。やはり児童・生徒がいてくれてこそこの学校なのだ実感しています。

分散登校が終了し、今週から週5日間の登校となりましたが、まだ活動が制限される中での教育活動となります。しかし、学校生活は授業だけでなく、集団としての活動を生かし、コミュニケーション、ルールの理解、模倣、話を聞く、順番を待つなど、人間関係や調整力など様々な力を様々な場面で身に付けていくことができます。学校で学習や生活することのメリットでもあると思います。

本校の目指す学校像である「児童・生徒一人一人を確かに育てていく学校」の実現のため、今行われている学校生活全体の教育活動の中で、「できた」「わかった」「やりたい」といった感情を育み、一つ一つ自信をもたせていきたいと考えています。

週5日の学校生活に慣れるまで時間がかかることもあるかもしれません。暑い夏を迎えるにあたり、調子がでない日があるかもしれません。御家庭の様子など担任に遠慮なく伝えてください。このような情報をいただくことで、我々は適切な対応をとることができます。一日でも早く充実した学校生活を過ごせるよう御協力をよろしくお願いいたします。